

矢作川流域圏懇談会 第2回市民会議 議事概要

日時：平成23年3月13日(日) 13:30 ～ 16:30

場所：岡崎市市民会館 集会棟1階パーティー室

1. 開 会 (司会：市民会議副座長 井上氏)
2. あいさつ
市民会議 裕 座長(矢作川「川会議」代表)
3. 第1回地域部会以降の活動報告
 - (1) 第1回地域部会の開催報告
【事務局より説明】意見等は特になし
 - (2) 第2回勉強会(川地域)の開催報告
【川部会副部長光岡氏より説明】意見等は特になし
4. グループ別討議の進め方について
【事務局より説明】意見等は特になし
(会場移動)
5. グループ別討議
 - (1) 第1回地域部会の検討成果についての意見交換
【グループに分かれて討議】
 - (2) 当面3ヶ年で取り組みたい課題についての意見交換
【グループに分かれて討議】
 - (3) 当面の課題候補の見える化についての意見交換
【グループに分かれて討議】
(会場移動・休憩)
6. 全体発表
【山部会の討議内容について 黒田 山部会副部長より発表】
 - ・ 山部会では、全体の進め方について多くの時間を割いたため、今後、こうゆうことをしていこうということまでを議論した。
 - ・ まず、第1回地域部会では、過半数が行政の人であり、あいさつ程度の話課題として整理されたことから、有志であつまり、課題の整理ををはじめようということ議論し、その資料を用意した。
 - ・ 内容については、地域部会の意見を整理したものであるが、山・川・海で共有できる課題として「矢作川の恵みで生きる」を共有で持とうということ、山を管理するために「山の恵みの利活用と公益的な機能、生物多様性の調和を図る矢作川流域圏の森林管理・山村再生のガイドライン」をつくりたいということの2つを追加している。
 - ・ 地域部会の検討成果については、「人に関わる課題」と「森に関わる課題」の他、「山村の再生」につきるといことが事務局の資料から抜け落ちてしまっている。

- ・ 今後、山部会では、これらの課題の整理・検討を行っていく段階として認識している。
- ・ そのため、ワーキングを活用して、山・川・海が一同に会してこのような問題を自由に話しあう場を用意し、問題解決に向けた一步を踏み出そうという提案をしたい。
- ・ また、矢作川流域圏では、市民活動をたくさん行っているのので、これらの事例を集め、行政に対して、支援や一緒に行っていこうということを地域部会で呼びかけたい。

【川部会の討議内容について 光岡 川部会副部長より発表】

- ・ 水質改善等により生態系を回復させることで、川の魅力が高まり、それにより子ども達にも川に親しんでもらえるようになるのではないかと。また、生態系が戻ってくれば、自然と人が集まってくるのではないかとといった意見が出された。
- ・ また、現在の川にも既に魅力がたくさんあるので、うまく活用したり、PRしたりしていくことにより、川に親しんでもらえる機会が増えるのではないかとといった意見が出された。
- ・ 最終的には、「川はどうあるべきか？」ということをもみんなで検討していくことが必要であるが、まずは「自然とのふれあいの増進」をテーマに、安心・安全（治水・安全な利用）、川の魅力のPR、水質の改善、自己責任の啓蒙ということについて具体的に考えていこうということでまとまった。
- ・ また、その1つの解決策として、啓発活動を行っていくことが重要であり、例えば、水質改善のアプローチとしては、合成洗剤の問題など、川と日常生活を結びつけるつけることも必要であるという意見が出された。
- ・ ただし、川部会のメンバーは日頃の活動内容や立場などの背景が多様なので、今後の進め方として、本流と支流にグループを分けたり、テーマ毎にグループを分けたりすることも検討する必要があるという意見が出された。

【海部会の討議内容について 井上 海部会部長より発表】

- ・ 第1回地域部会の検討成果の中では、ケイ素の話が抜けているのではないかとという意見があった。こちらについては、事務局へケイ素を大事にする意味をレクチャーしたい。また、矢作川下流には、いつも湧水がある場所があり、湧水中のケイ素が海の生産性にうまくむすびついているという話もあった。
- ・ 矢作川流域圏における課題（案）について、キーワードとしては、「にごり」がある。濁りが海の生産性を小さくしており、その濁りは、人工林や田んぼから流れてくるということから実態を把握するとともに、干潟への影響についてモニタリングすることが必要である。
- ・ 当面の課題としては、海部会で取り扱う課題が全て結びつき総花的になることから、改めて考えた。その中で、一次産業（漁業、水産業、農業等）で学校へ行かせることができ、漁業という職業に誇りが持てるような、漁業の持続性を保てるような意識改革、共有、継承が必要なこと。また、収入が誇りや生活の安定性を担保するので「魅力ある一次産業を目指し、次世代へ継承していき

い」を市民会議からの新たな提案としてあげている。

- ・ 当面の課題に対する話し合いも含め、さらに議論するためには、もっと会議への参加者を増やしていかないといけないということも課題である。

【BIO de BIO 黒田氏】

- ・ 市民会議を2回開催しているが、参加者が減少していることが課題。そのため、山・川・海の部会合同で自主的に、自分たちが抱えている問題も含めて、全体を見据えながら、お互いの理解を深めながら話し合いを行っていくことを提案したい。

【矢作川「川会議」 裕氏】

- ・ 全体の矢作川をとらえる会議としてワーキングをしたいがどうか。
(拍手を持って承認)

【家下川を美しくする会 伊奈氏】

- ・ 今後の日程については、配慮をお願いしたい。

【事務局】

- ・ これまでも同じような意見を頂いている。今後、日程調整を行う前に参加者のみなさんにメールにて確認したい。

7. その他

【事務局より説明】

- ・ 福寿草シーズン開きのお知らせ
- ・ ヨシ植えの参加募集
- ・ 洪水の教訓を次世代に伝える
- ・ 古文書に見る地震記録
- ・ 三陸沖地震の対応について
- ・ エネルギー消費の節約のお願い

【菅原氏】

- ・ 矢作川で津波がおきた場合にはどうなるのか。シミュレーションなどはしているのか。

【事務局】

- ・ 予想されている地震に対して、どのくらいの高さの波がくるのかについては、気象庁がデータを出している。

8. 閉会

以上